

# 足羽川ダムについて



# 足羽川ダム事業の経緯

- 予備調査着手(昭和42年度)
- 実施計画調査着手(昭和58年度)
- 建設事業着手(平成6年7月)
- 足羽川ダム建設事業審議委員会を設置  
(平成7年9月～平成9年9月)
- ダム審議委員会が局長に「足羽川ダム建設事業についての意見」を答申  
(平成9年9月)
- 「足羽川ダム建設事業審議委員会からの意見を受けて」の方針を発表  
(平成9年11月)
- 現ダムと比較できる代替候補案の机上検討結果を公表  
(平成11年11月)
- 代替候補案ダムの地質調査結果公表(平成13年11月)
- 県から「足羽川ダムに係る水需要計画」の回答  
「足羽川ダムの新規利水(上水道、工業用水)は不参加としたい」  
(平成14年1月)

# ダム建設事業審議委員会の意見

平成9年9月5日

足羽川の治水、利水(生活用水、工業用水、農業用水)ならびに環境(河川美化)を考慮すれば、足羽川にダム建設は必要である。

しかし、現在計画している足羽川ダムについては、審議委員会では次の意見が出された。

- (1) 足羽川ダムの建設は、住民を水害から守り、流域への灌漑用水の供給、生活・産業活動に不可欠な水資源確保のために必要である。
- (2) 現行立地での計画推進には、大きな犠牲を伴い、地元同意を得ることが困難と思われるので、適当とは認めない。
- (3) ダム建設による水没世帯が極力少なくなるようダム規模の縮小、河川改修等、事業者は最善の努力をすべきである。
- (4) ダム建設には下流流域の受益者の協力が特に重要である。
- (5) やむを得ず水没世帯が生じる場合は、事業者と受益者は納得のいく代替地の提供等十二分な補償を講ずるべきである。また、関係市町村にわたる広域観光開発等を強力に実施する等地域振興をはかるべきである。

よって事業推進にあたっては、今後とも地域住民の意見を十分に聴取し理解を得るとともに、足羽川の治水、利水、環境の重要性ならびに計画発表から40年近くを経過した現状に鑑み、委員会の意見を十分勘案され、早急にその可能性について検討されたい。

# ダム建設事業審議委員会の審議委員

区 分	役 職	氏 名	(交替者)	
学識経験者	福井大学学長	神野 博		
	県経団連会長	市橋 保		
	県連合婦人会会長	山内 フミ子		
	福井新聞社社長	吉田 耿介		
首 長	福井県知事	栗田 幸雄		
	福井市長	酒井 哲夫		
	美山町長	藤田 海三		
	池田町長	古川 嘉雄	(杉本 博文)	
議会代表	福井県議会議長	中島 弥昌	(池田 俊男)	
	福井市議会議長	中村 正秋	(中谷 輝雄)	(田辺 義輝)
	美山町議会議長	木ノ内 俊昭	(小森 清二)	
	池田町議会議長	長谷川 重成	(清水 邦彦)	

# ダム建設事業審議委員会の審議の経過

平成7年9月22日	第1回審議委員会
平成7年11月21日	第2回審議委員会
平成7年12月15日	現地視察
平成8年3月4日	第3回審議委員会
平成8年6月15日	意見を聴く会 意見発表19名
平成8年5月1日～平成8年5月31日まで	意見募集
平成8年6月17日～平成8年7月16日まで	意見申出書の閲覧
平成8年7月31日	第4回審議委員会
平成8年10月28日	第5回審議委員会 意見発表5名
平成8年11月5日	第6回審議委員会 意見発表5名
平成8年12月18日	第7回審議委員会
平成9年1月22日	第1回勉強会 講師 1名
平成9年2月17日	第2回勉強会 講師 1名
平成9年4月30日	第3回勉強会 ダム事業者・利水事業者説明
平成9年4月30日	第8回審議委員会
平成9年5月23日	第9回審議委員会
平成9年7月3日	第10回審議委員会
平成9年8月5日	第11回審議委員会
平成9年9月2日	第12回審議委員会



審議委員会 12回  
勉強会 3回  
現地視察 1回  
意見を聞く会 1回

# 審議委員会意見を受けての方針

平成9年11月19日

近畿地方建設局

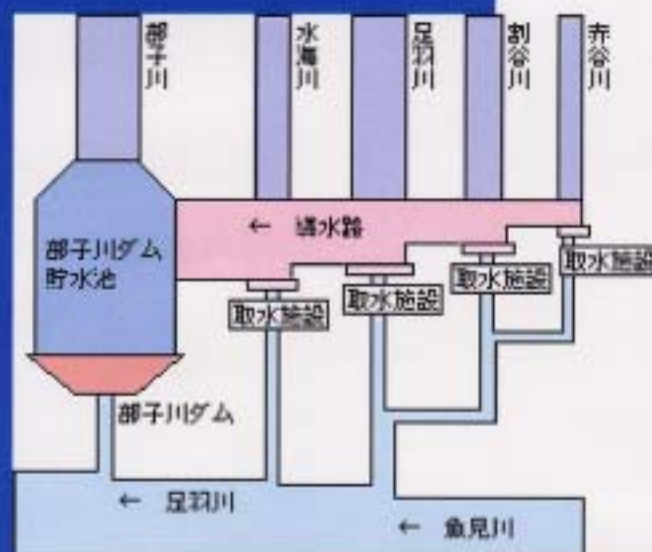
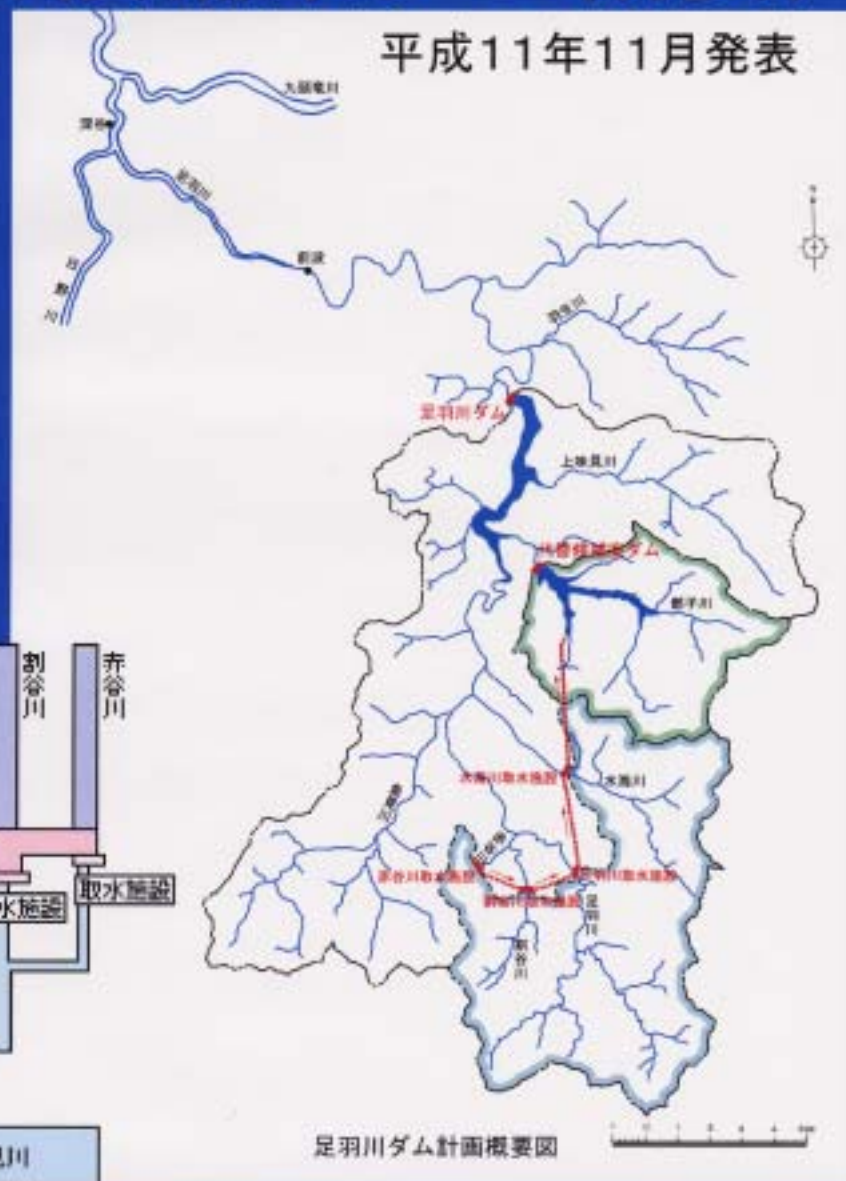
建設省は、足羽川ダム建設事業審議委員会からの意見を尊重し、足羽川ダム建設事業について、今後以下の方針で検討を行うこととする。

1. 治水計画については、現在の足羽川ダム計画に加え、これまでに検討し公表してきた代替案の他、ダム建設による水没戸数を極力少なくする可能性について検討すべきとの同審議委員会の意見を踏まえた代替案も検討する。
2. 水道用水・工業用水については、その確保の方法等について、建設省、福井県、水道事業者及び工業用水道事業者が共同で、治水計画の代替案検討と連携して検討を進める。
3. 調査・検討ののち、その結果を公表し、福井県知事、関係市町村長、関係住民等の意見を聴いた上で、今後の足羽川ダム建設事業の進め方について判断することとする。

# 机上検討の結果(代替候補案ダム概要)

集水面積	約105km <sup>2</sup>
総貯水容量	約72,000,000m <sup>3</sup>
ダム高	約130m
導水トンネル本数	4本
導水トンネル 延べ延長	約11km
導水トンネル トンネル径	約5m~17m
取水施設	4カ所

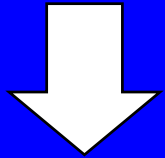
平成11年11月発表



# 代替候補案ダムの地質調査結果

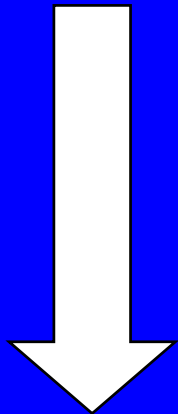
平成13年11月発表

## 貯水池周辺地質



- ・ダムサイト周辺には第四紀断層(活断層)は存在しない。
- ・湛水によって影響のある地すべり地形は認められない。

## ダム建設の可能性(最下流サイト)

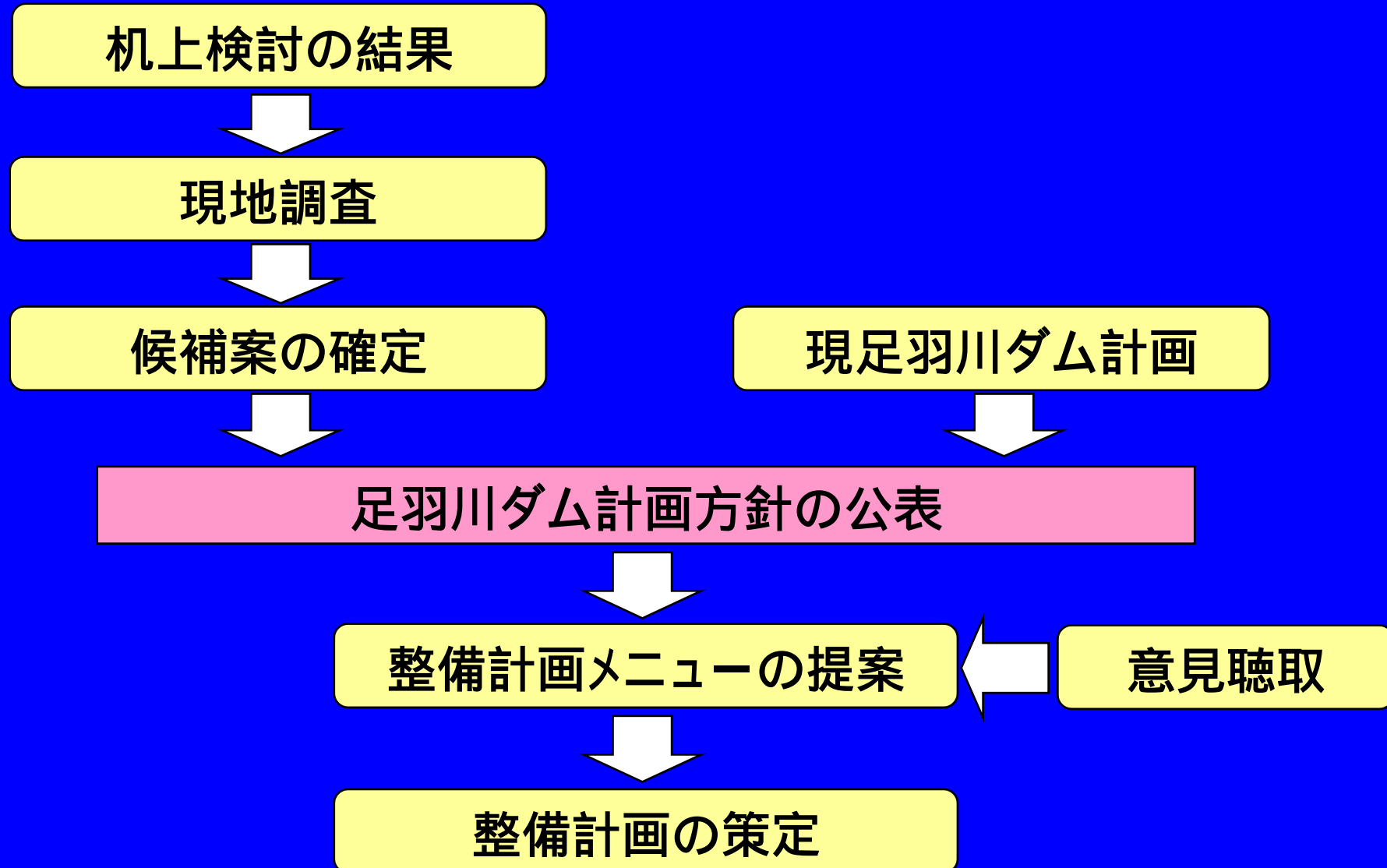


- ・ダムの基礎岩盤は堅固である。
- ・ダム建設に支障となるような断層等の存在は確認できない。
- ・右岸高標高部に一部弱層部が見受けられるが、一般的な対策を講ずることに対応が図れる。

最下流サイトにおいて、重力式コンクリートダムでは130m級までの建設が可能な地質である。



# 足羽川ダム計画の進め方



# 比較検討のポイント

治水効果

ダムサイトの地形・地質

水没世帯数等

環境への影響

経済性

# 比較検討結果のまとめ

## (前提条件)

- 治水計画、現ダムと同等な効果を有する。
- 地形地質において、問題がない。

## 比較結果

- 水没世帯数、関係者数等が少ない。
- 改変面積が小さいことから、環境への影響が少ない。
- 現ダムより建設費は少し高くなる。

総合的に判断し、代替候補案ダムの方が優位

# 足羽川ダム計画方針

これらの検討結果から、今後、

**部子川のダムサイトを**

足羽川ダム計画として提案していきたい。